

2021年度 教育改革FD/ICT理事長・学長等会議 開催要項

オンライン開催

日時：令和3年10月29日（金）13:00～17:00

配信会場：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

開催方法：オンラインによるテレビ会議室（Zoom使用）とします。なお、申込者には3日前にメールでテレビ会議室専用のURLをお知らせします。

テーマ

ニューノーマルにおける教育の質向上を目指した デジタル変革(DX)を考える

開催趣旨

コロナ禍で人との接触が制限される中、新しい生活様式や働き方・教育などが見直され、ニューノーマルとしてICTを駆使した変化への対応が加速し、コロナ禍前の状況には戻らなくなりました。他方、あらゆるものがネットにつながり、様々な分野で仮想空間と現実空間を融合して新たな価値の創出が求められる中、経済的・精神的・身体的な豊かさと質の高い生活を目指す「Society5.0」社会が到来しつつあります。

教育再生実行会議(第十二次提言)では、ポストコロナ社会での新たな学びの在り方を考えるに当たって、個人と社会全体の幸せ・豊かさを実現するウェルビーイングの重要性を確認し、「一人一人が自分の身近なことから他者や社会の様々な問題に至るまで関心を寄せ、社会を構成する当事者として、自ら主体的に考え、責任ある行動をとることができるようになることが大切です。」とし、今まで以上に学修者本位の視点を重視した教育に転換していく必要があるとしています。

それには、学生が物事の本質を見極める意識を持って主体的に思考し、協働で創造的な知性を引き出すことができるよう、対面授業と遠隔・オンライン授業の長所を効果的に組み合わせたハイブリッドな教育を開発・提供していくことが喫緊の課題となっています。また、デジタル化時代の担い手を育成するためには、デジタルデータをエビデンスとして活用できる数理・データサイエンス・AI教育の普及が要請されています。

デジタル技術の導入が目的ではなく、それを手段として教育の制度や仕組み、教職員の意識を変革し、学生が生涯に亘り社会課題に貢献できるよう、大学として学生に最良の学びの場を開発・提供していくことが急がれています。

そこで本会議では、大学教育のデジタル変革に対する文部科学省の方針を確認した上で、ハイブリッド型教育の現状と期待される効果と課題、学修者主体の質の高い学びの創出をどのようなコンセプトで開発し、教育現場で推進していくことが望まれるか、さらにはデジタル化時代の担い手となる教育の推進について、認識を深める場としました。

【プログラム】

13:00 会長挨拶 向 殿 政 男 氏（明治大学顧問）

13:10 **講演 1**

「ポストコロナにおける高等教育のDXと数理・データサイエンス・AI教育の取組み」

高等教育のDXの加速状況、DXで実現できること、教育の価値を高める社会の参画、文部科学省のDX施策、データが価値を創造する時代、数理・データサイエンス・AI教育推進に向けた施策等について紹介いただく。

講 師：服部 正氏（文部科学省研究開発局環境エネルギー課環境科学技術推進官、前高等教育局専門教育課企画官）

13:50 **講演 2**

「対面とオンラインによる大学教育の展開、DX時代のリカレント教育」

知識の習得をオンデマンド、知識の活用や議論を対面で行う長所を組み合わせたブレンディッド学修と、教室にくることが困難な学生に機会を提供するハイブリッド教室(HyFlex)が増加。SDGsなど社会課題の解決のため、対面とオンラインを併用した大学間、国際、産学連携のリカレント教育の推進が可能になる構想を紹介いただく。

講 師：井上 雅裕氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授
日本工学教育協会理事、前芝浦工業大学副学長）

14:30 **講演 3**

「熟議を促す対面と熟慮を促すオンラインで問題発見・課題解決を訓練する場の提供」

大学教育の真価は討論による熟議が求められる。今、我々は誰も正解を知らない問題に直面しているが、それに立ち向かうには、対面とオンラインを効果的に組み合わせ、仮説を立て、妥当性をエビデンスに基づき検証する訓練の場を如何に提供できるか、教員の意識改革が期待されることを説明いただく。

講 師：田中 愛治氏（早稲田大学総長）

15:00 **講演 4**

「日本の大学教育を変えるには、リベラルアーツとオープン化」

デジタル革命から大きく遅れた日本で自分を高め、明るい未来を拓くには、自ら思索し、イノベーションの志を実践していく主体性の力が不可欠。歴史・思想などリベラルアーツを学び、多面的に判断する素養を身に付けるとともに、膨大な情報から価値ある情報を発見し、未解決の課題に挑戦できるオープンな教育の場を如何に創っていけばよいか、論点を整理いただく。

講 師：安西 祐一郎氏（日本学術振興会顧問、内閣府統合イノベーション戦略推進会議「AI戦略」有識者会議座長、本協会副会長）

15:30 **講演 5**

「学びの自由度、国際通用性が求められる場としての遠隔海外連携授業」

グローバル人材の育成には、オンラインによる学生主体の柔軟な学びの場が欠かせない。海外連携型協働学習(COIL)は学びの自由度を格段に高める。反面、教育現場が世界の土俵に立つことから、授業の国際通用性を如何に高めるか、教員、大学に課題が求められていることを説明いただく。

講 師：曄道 佳明氏（上智大学学長）

16:00 **講演 6**

「AI活用人材育成プログラム、バーチャルラーニングの学内外への提供」

文系・理系を問わない初学者を念頭においたバーチャルラーニングの内容と他大学での活用方法、学修成果の評価方法などの展望について説明いただく。

講 師：巳波 弘佳氏（関西学院大学副学長）

16:30 **関連情報提供**

「令和2年度私立大学教育における情報化投資の実態」など

17:00 **閉 会**

【参加資格・対象】

加盟校の理事長、学長、理事、副学長（学長補佐）、学部長、教務部長・教務主任(教員限定)、短期大学学科長、センター長のご本人とします。ご本人が出席されない代理者のみの参加はできません。なお、ご本人出席に伴う随員(視聴)は3名まで参加が可能です。

【参加費】

1名 13,000円(税込) ※随員(視聴)も1名分の参加費が必要です

参加者には、当日のZoom録画データを後日閲覧できるよう、3日間程度保管し、録画視聴としてテレビ会議室専用のページで案内します。

【申込方法】

別紙又は下記 Web の「申込用紙」に必要事項を記入いただき、メール添付又は FAX でお送り下さい。

申込用紙 <https://www.juce.jp/LINK/rijicho/mosikomi.xls>

送付先 メール： info@juce.jp

FAX : 03-3261-5473

※ 事前に資料集を郵送しますので、確実にお届けできるよう、申込みの際には、各参加者がお受取り可能な送付先住所を記入下さい。

【申込締切】 令和3年10月25日(月)

※ オンライン開催のため、3日前にテレビ会議室専用の URL をメールでお送りします。

【参加費振込】 できるだけ10月29日(金)までに振込み下さい。

※ 大学の支払い処理日の関係等で振込期日が間に合わない場合でも参加できますので、申込書の欄外に振込予定日を記述して申し込み下さい。

【振込先】

シジョウキョウ

りそな銀行 市ヶ谷支店 普通 0054409 私情協

〒102-0073 千代田区九段北 4-1-14 九段北 TLビル 4F TEL:03-3261-2798

※ 振込手数料は申込者各自で負担願います。

※ 銀行のATM機で振込みますと、本協会の口座名義人が上記略称ではなく、本協会の正式名称「公益社団法人 私立大学情報教育協会・・・」で表示されますのでご了承下さい。

※ 申し込み後のキャンセルは、10月25日(月)まで受付し、お支払いされた参加費から振込手数料、資料費を差し引いた金額を返金します。

※ 3日前にテレビ会議室専用の URL をメールでお送りした後のキャンセルはできません。この場合、参加費の返金は致しませんのでご了承ください。

送付・問い合わせ先

公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

TEL:03-3261-2798 FAX:03-3261-5473、E-mail:info@juce.jp

<https://www.juce.jp/LINK/rijicho/2021rijicho.pdf>

